

| | |
|--------------|---------------------|
| 資 料 提 供 | |
| 令和元年7月16日 | |
| 担当課 (担当者) | 県立博物館 学芸課 (福代 宏) |
| 電 話 | 0857-26-8044 |

県立博物館 歴史・民俗展示室「歴史の窓」コーナーの展示替え
蒔絵の美—鳥取県無形文化財〔保持者：田中正輝（故人）〕の仕事—

鳥取県無形文化財〔蒔絵〕の保持者であった田中正輝（2代田中稲月）は、大正8年（1919）、鳥取市吉岡温泉町で生まれました。気高郡立徒弟学校で漆工を学んだ明治生まれの父・勇吉（初代稲月）に蒔絵を師事し、従軍を経て、吉岡の地をはじめ鳥取市内で漆器に従事しました。

保持者は、意匠の下絵を多く描くなど、その研究姿勢が熱心であり、加えて、研ぎ出しや高蒔絵などの漆芸の高さ、さらには螺鈿や切金の細工を併用する技術が評価され、平成17年11月29日に鳥取県の無形文化財に指定されました（保持者の死後、平成20年4月25日指定解除）。

当館ではこの度、御遺族の御協力の下、保持者生誕100年の節目に、初代・2代合わせて田中稲月が制作したなつめ 棗を中心に、因幡地方に伝わっていた漆器や蒔絵技術について展示紹介します。

1 展示資料

棗18点、額・皿など田中稲月の作品、
下絵、制作道具など（会期中展示替えあり）

2 展示期間

令和元年7月17日（水）から
同年9月8日（日）まで

3 展示場所

県立博物館 歴史・民俗展示室
「歴史の窓」コーナー



棗（花筏蒔絵）

